

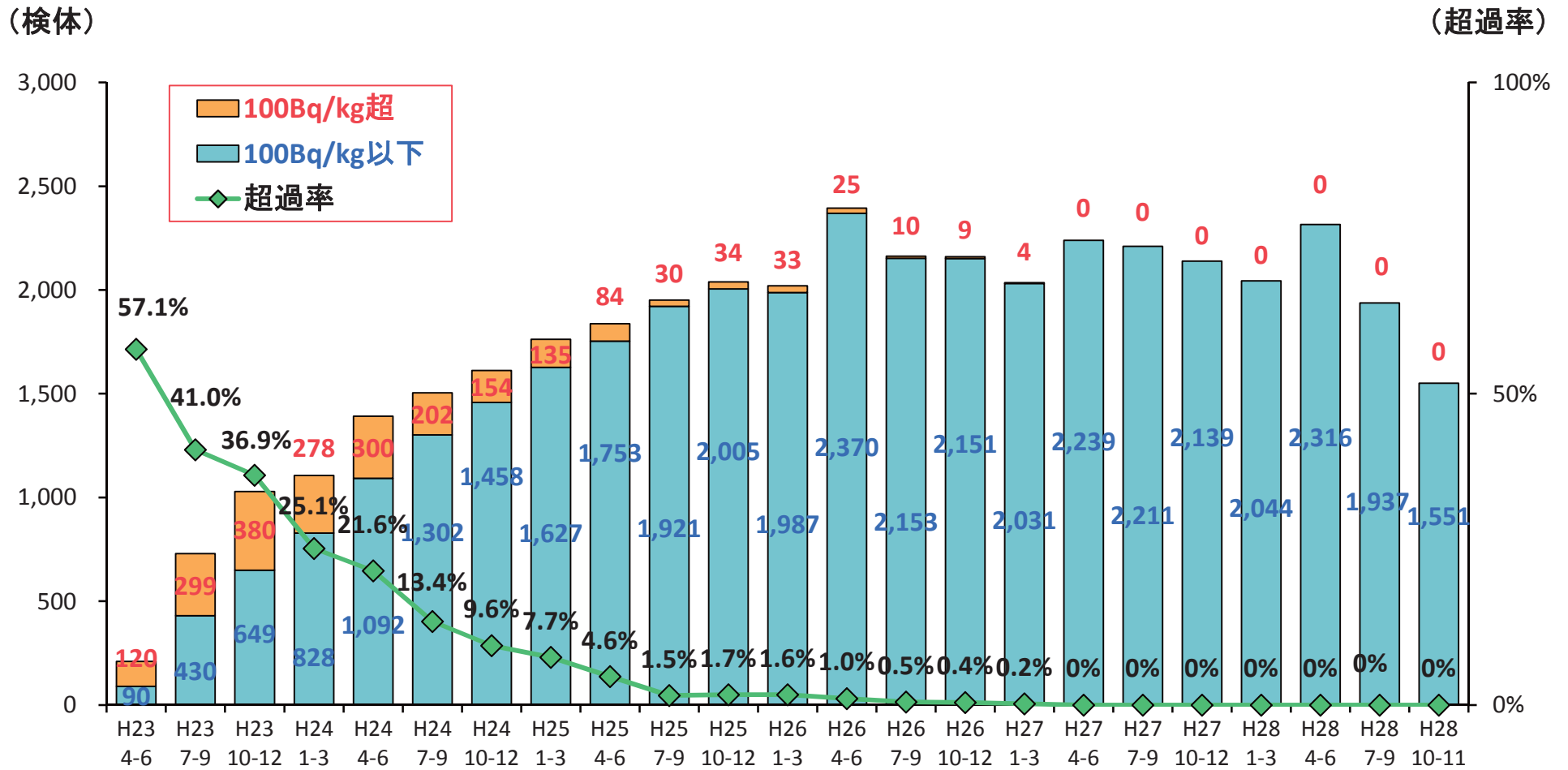
水産物の調査の考え方

- 調査対象魚種の拡大や調査頻度の増加等調査を強化
 - ・ 50ベクレル/kgを超えたことのある魚種や主要水産物を中心に調査
 - ・ 近隣県の調査結果を参考

沿岸性魚種等 (例:コウナゴ、スズキ、カレイ等)	水揚げや漁業管理の実態、漁期等を考慮し、県沖を区域に分け、主要水揚港で検体採取。表層、中層、底層等の生息域を考慮して調査。
回遊性魚種 (例:カツオ、イワシ・サバ類、サンマ等)	回遊の状況等を考慮して、漁場を千葉県から青森県の各県沖で区分(県境の正東線で区分)し、区域ごとの主要水揚港で検体採取。
内水面魚種 (例:ヤマメ・ワカサギ・アユ等)	漁業権の範囲等を考慮して県域を適切な区域に分け、主要区域で検体採取。

水産物の検査結果（福島県海産種：40,381点）

福島県海産種では、平成27年4月以降基準値を超える検体はない。



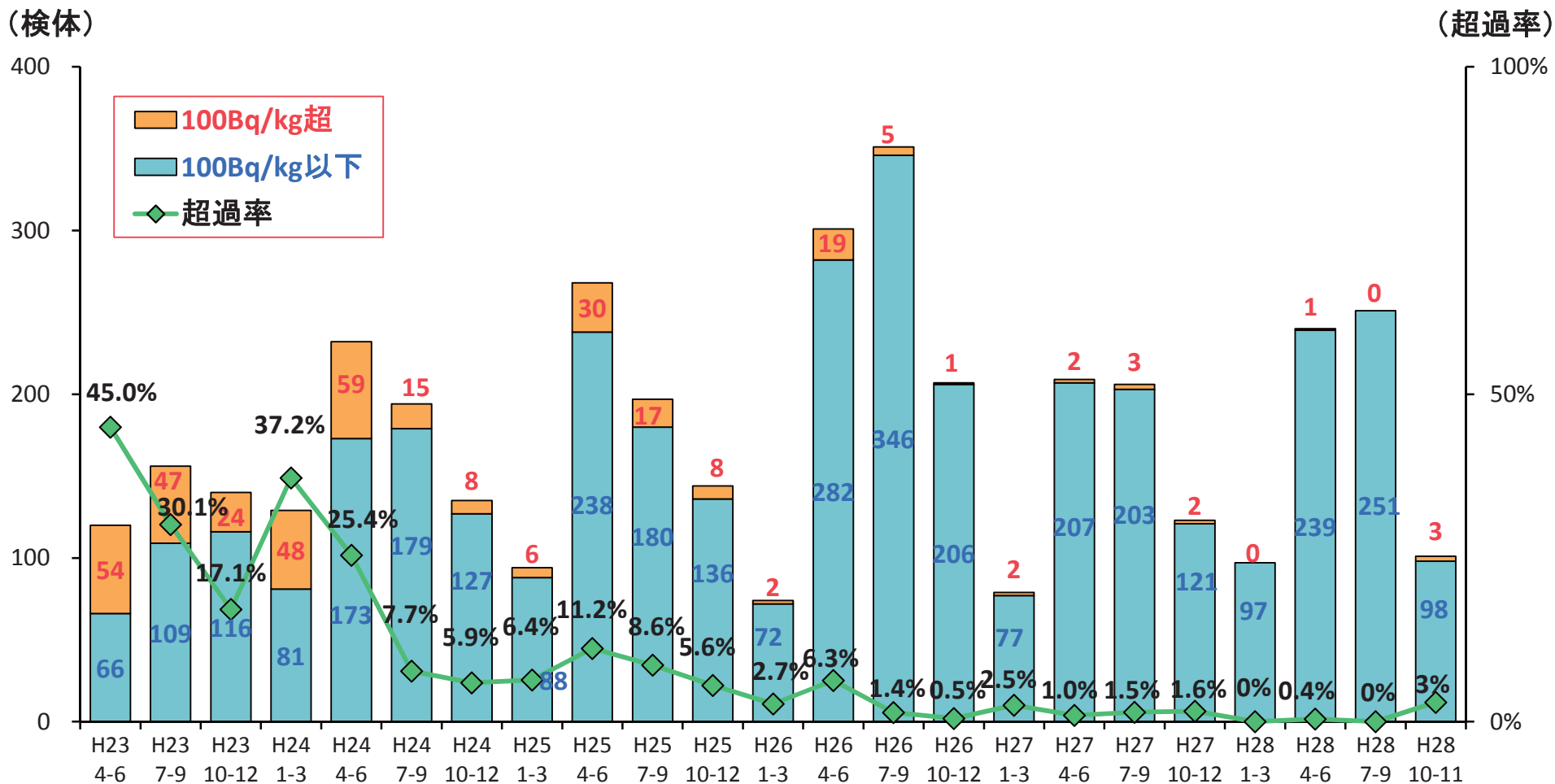
(注) 平成23年3月24日～平成28年11月28日までの検査結果を水産庁にて集計。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省

水産物の検査結果（福島県淡水種：4,048点）

福島県淡水種における基準値を超える検体は、時間経過と共に減少傾向。

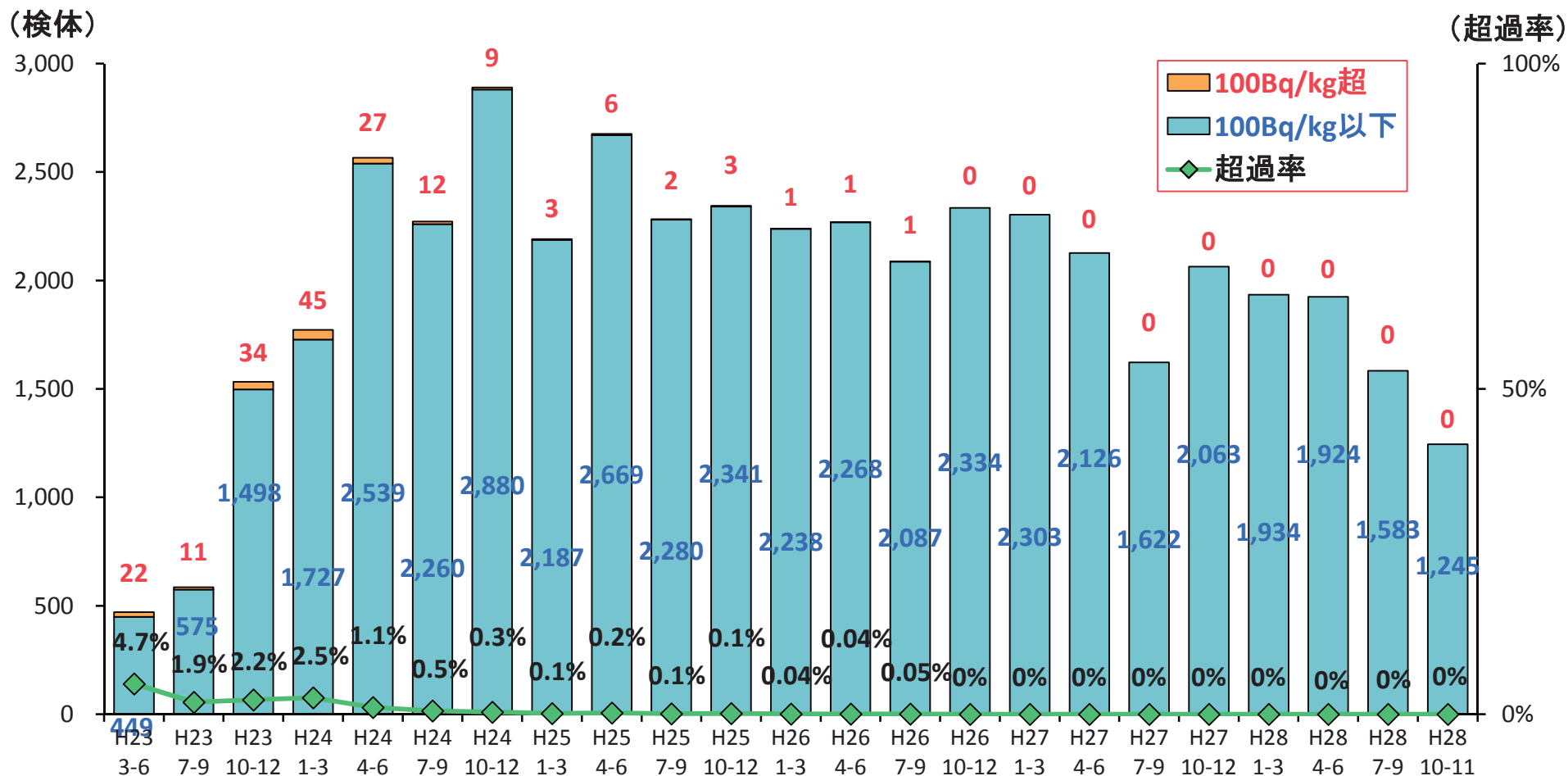


(注) 平成23年3月24日～平成28年11月28日までの検査結果を水産庁にて集計。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

水産物の検査結果（福島県以外海産種：45,309点）

福島県以外海産種では、平成26年10月以降基準値を超える検体はない。



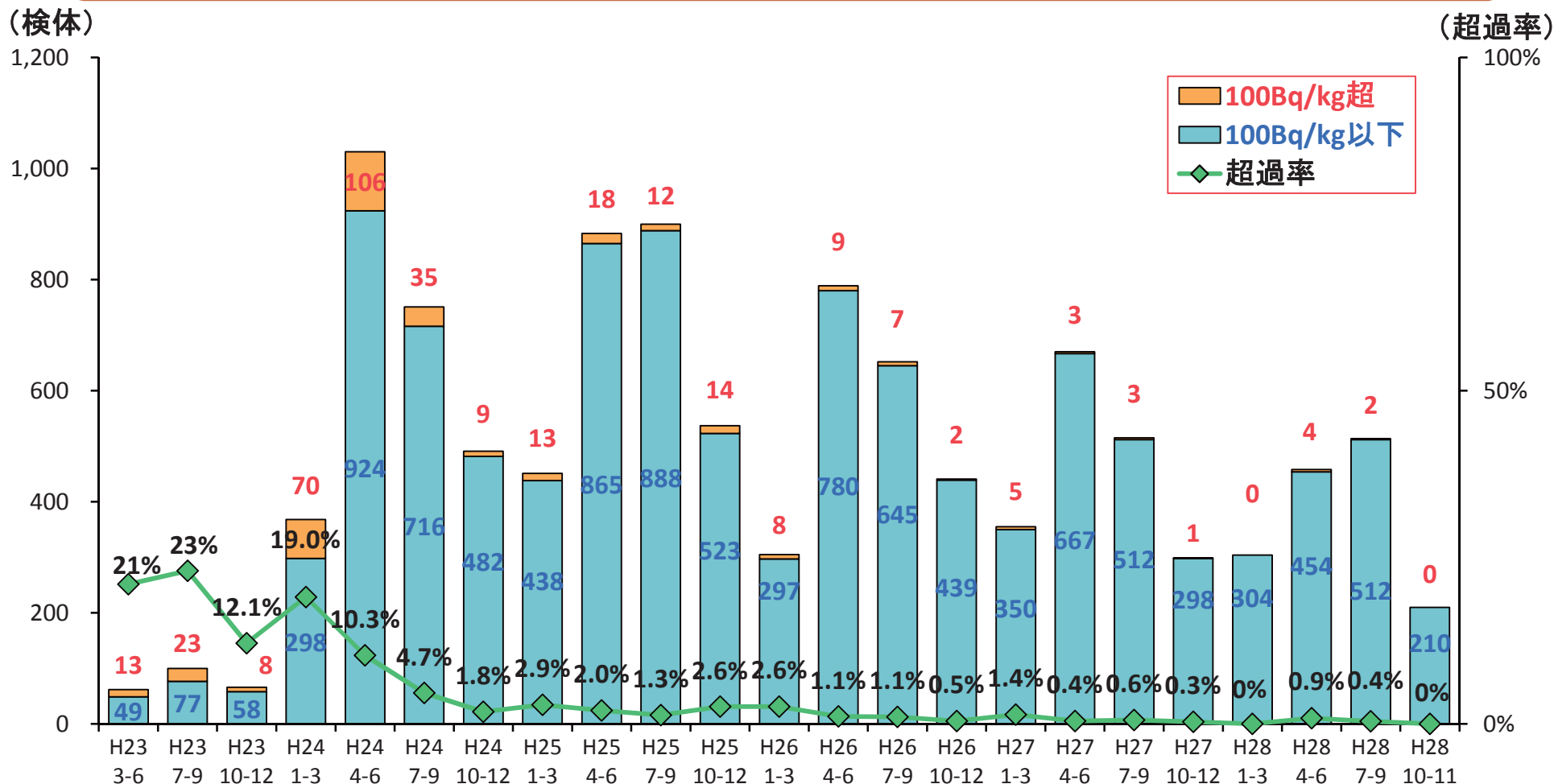
(注) 平成23年3月24日～平成28年11月28日までの検査結果を水産庁にて集計。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省

水産物の検査結果（福島県以外淡水種：11,151点）

福島県以外の自治体等における淡水種では、基準値を超える検体は時間経過と共に減少傾向。



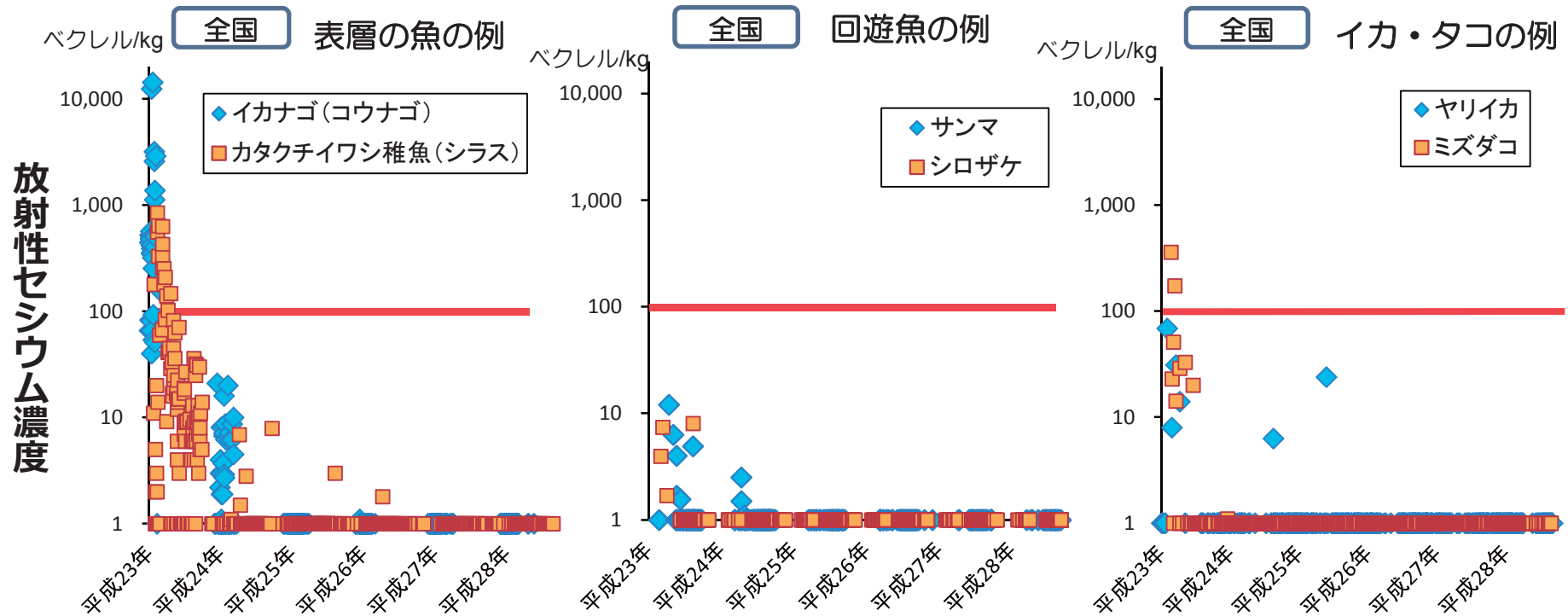
(注) 平成23年3月24日～平成28年11月28日までの検査結果を水産庁にて集計。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省

魚種別の放射性セシウム濃度の傾向 (1/2)

- シラス等の表層魚：事故後速やかに基準値を下回る
- 回遊魚、イカ・タコ、エビ・カニ、海藻類：基準値を下回る
- カレイ等の底魚：時間の経過と共に基準値を下回る
→ 生息域の環境や食性等が品目ごとの傾向に関係



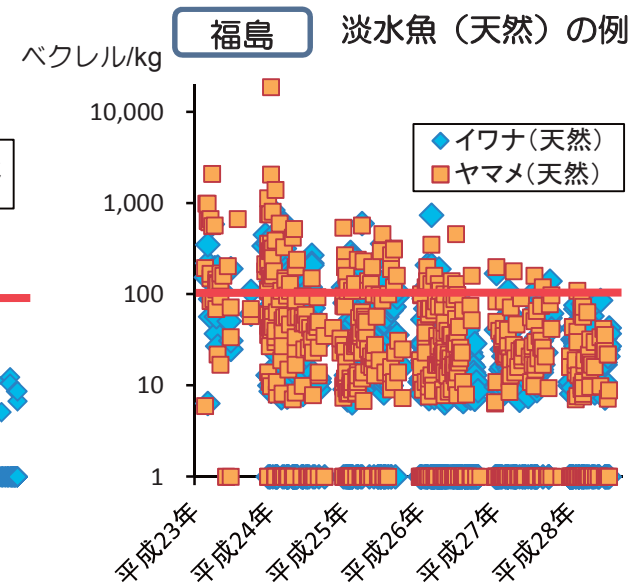
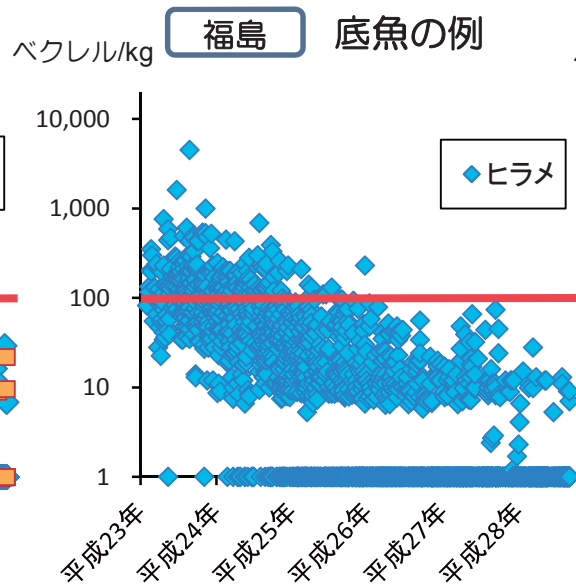
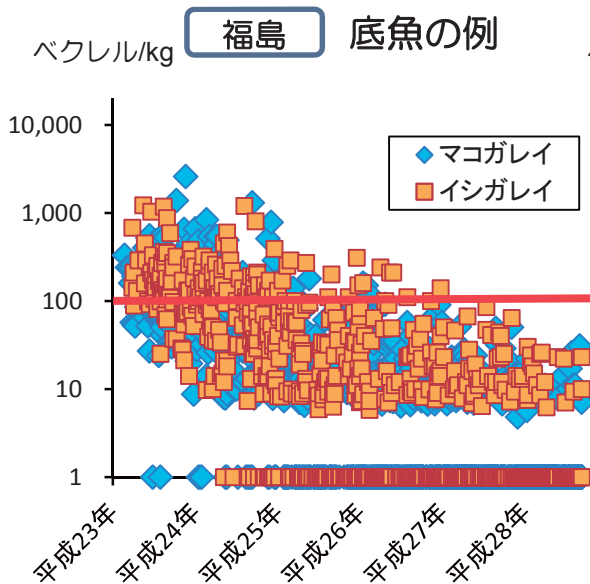
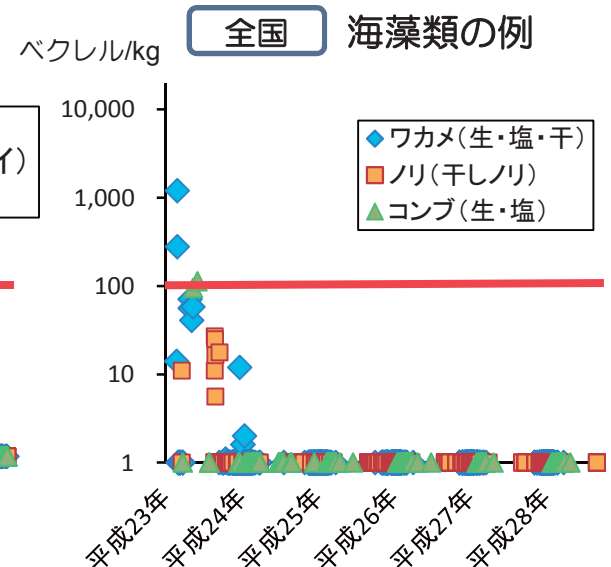
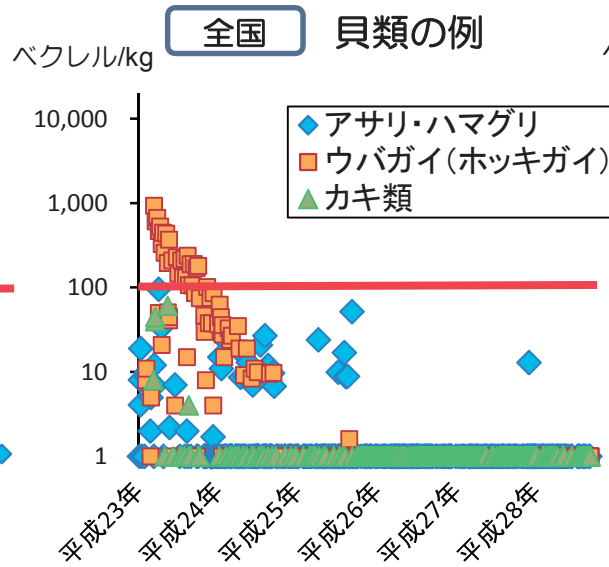
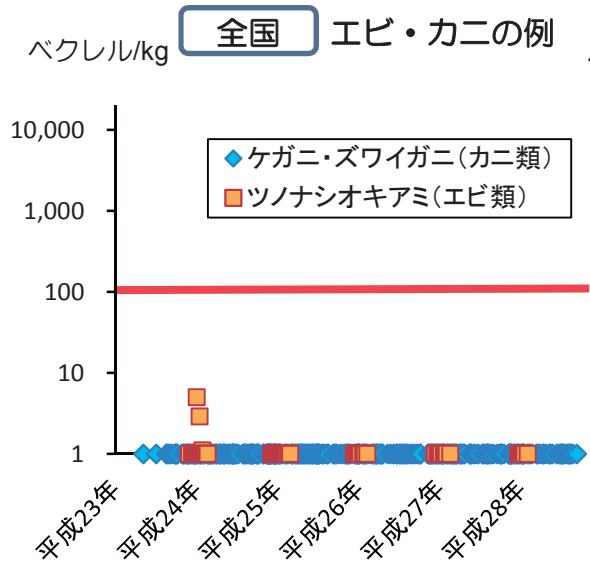
(注) 平成23年3月24日～平成28年11月28日までの検査結果を水産庁にて集計。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省

魚種別の放射性セシウム濃度の傾向 (2/2)

放射性セシウム濃度



(注) 平成23年3月24日～平成28年11月28日までの検査結果を水産庁にて集計。

農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省

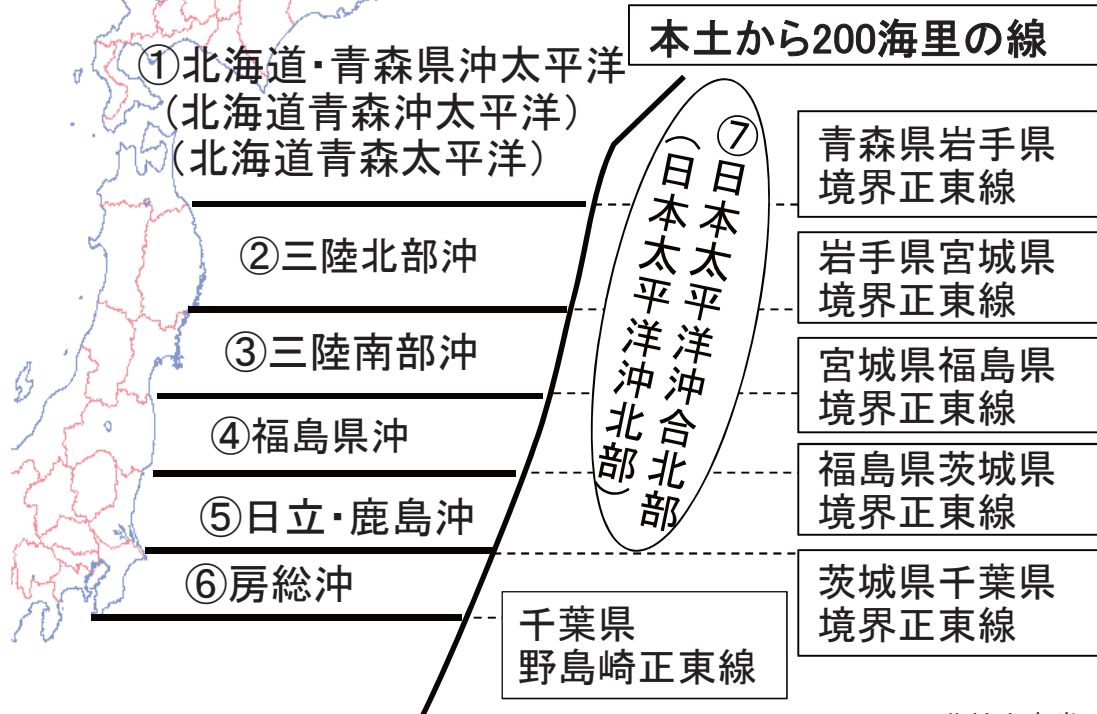
消費者への原産地情報の提供

○平成23年10月から、東日本太平洋側で漁獲された生鮮水産物を中心に、生産水域の区画及び水域名を明確化し、原産地表示を推奨。

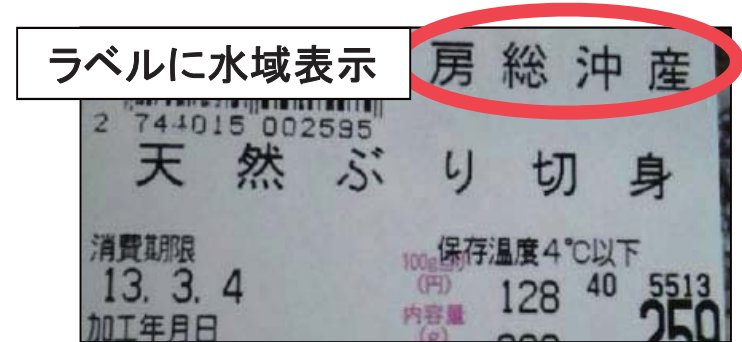
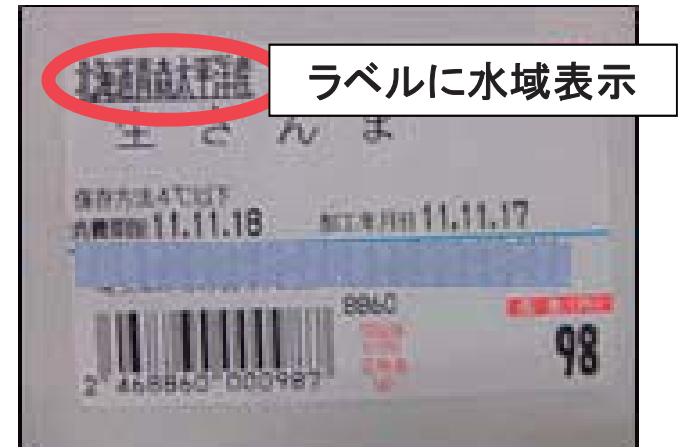
回遊性魚種の水域区分図

【回遊性魚種】

ネズミザメ、ヨシキリザメ、アオザメ、イワシ類、サケマス類、サンマ、ブリ、マアジ、カジキ類、サバ類、カツオ、マグロ類、スルメイカ、ヤリイカ、アカイカ



表示の例



農林水産省「農林水産現場における対応」より作成

農林水産省